

## ～専任幹事中間報告～

## \*\*\*\*\*目次\*\*\*\*\*

|    |               |        |
|----|---------------|--------|
| P1 | 専任幹事中間報告      | 西村 彦二  |
| P2 | 仲間たちの近況報告 (1) |        |
|    | 1 班           | 笹井 宏悦  |
|    | 2 班           | 藤田 憲治  |
| P3 | 仲間たちの近況報告 (2) |        |
|    | 3 班           | 齋野 政博  |
|    | 4 班           | 中澤 重文  |
| P4 | 私の玉手箱         | 玉尾 洋一  |
| P5 | 写真コーナー        | 吉野 久司  |
| P6 | 樹形ウォッチング      | 遊上 真一  |
| P7 | 自由コーナー        | 高井 茂光  |
| P8 | 絵画コーナー        | 西田 喜代三 |
|    | //            | 岩城 正大  |
| P9 | リレー随筆         | 上池 喜代美 |
|    | 俳句・川柳         | 谷坂 修二  |
|    | //            | 山上 恵子  |

## ◇自然と文化だより◇

今期最終号となりました。皆様のご協力により、今号も10頁近い投稿を得ることが出来ました。

先般の意向調査では本誌にもご意見をいただきました。一部配慮の欠けた点があったことはお詫び申し上げます。また、発行回数を減らせば投稿確保が容易になるのではとのご意見もありましたが、回数が減少しても投稿が自然に生まれるとは考えにくく、やはり現在の年4回発行を目標とするのが妥当と考えます。投稿については、出来れば輪番やくじ引き等によらず、自主的に、各々の能力を発揮する場として、より積極的に活用していただければと思います。 NA

## 科の運営の負担軽減を！

## 社会貢献専任幹事 西村 彦二

平成22年に「自然と文化科」に入科し、班長を1年、総務専任幹事を3年、社会貢献専任幹事を2年務め、今年で5年の役員任期を経験しました。身に余る重責で精神的・体力的にかなり厳しい時もありましたが、周りの皆さまに支えられてなんとかやってこられました。

最近、専任幹事や幹事になることを固辞する科員が多く、運営委員会で役員の任期延長を検討しています。それも一策ではありますが、本来、5年の役員任期はできるだけ多くの人に科の運営に参加してもらうこと、また一部の人々が長く役員に留まることを避け世代交代（新陳代謝）を促すことを目的とした規約です。確かに90名を超える大所帯になると科の運営も大変で、役員の負担も以前よりはるかに大きくなっています。“そんな重責は担いたくない”のが正直なところだと思いますが、それでは科の運営が成り立ちません。

そこで提案です。

(1) できるだけ多くの人が運営に参加することにより一人当たりの負担を軽減することです。そのためには万博ネイチャーラリー、一泊旅行、研究活動発表会などの大きなイベントは役員以外の科員をリーダーとするプロジェクトチームが担当します。また、毎週金曜日も全科員そろっての活動ばかりではなく、班単位や新たに委員会単位での活動日も設けても良いと思います。そうすればより多くの科員が活動の運営に参加できます。不慣れな人がやれば色々トラブルもあるでしょうが、少人数での活動であれば周りのサポートで何とかなります。

(2) 次に、科の活動の準備に手間を掛け過ぎないようにすることです。毎回はじめの場所へ出掛けるのでは準備も大変です。同じ場所(活動拠点)へ何度も出向き、そこでの活動内容を深めるのも良いと思います。

科の運営に対する不満は概して運営に携わったことのない人に多いようですが、自分が運営に参加するとなれば不満も出ないでしょう。完璧でなくても良いと思います。“その程度の負担なら自分にもできる”というような運営が良いのではないのでしょうか。

(追伸) 来年度から研究部による「小学校自然ふれあい教室」が本格的に始動します。当面は大阪市内の小学校が中心になりますが、引き続きリーダー・スタッフを募集中。都合のつく時に参加すればよいので皆さん気軽に応募してください。



## 畦道を歩いて

## 1 班 笹井 宏悦

春の七草やロゼット植物たちを求めて近郊の田園地帯の畦道を歩いた。背中には 2 月の陽光で、少し温かみを感じたが、やはり北風に向かって歩くのは冷たく辛い。しかし、田んぼ道を歩くのは何か懐かしい。



昨年の 4 月から、私より年齢が 1 周り違う先輩の女性と、人里植物（帰化種）の継続観察を行い、今回が 6 回目である。ある時、その先輩に「雑草の観察会をしましょう」と言ったら、「雑草」ではなく「人里植物」と言って下さい・・・と反論された。観察する時も、植物に畏敬の念！をもってやりなさいということだろう。

観察場所は泉北ニュータウンの少し外れた田畑区域で、以前の地形は二次林があり、小さな川の流れる丘陵地帯だったと思う。今は、人家もあちこち建ち、農耕地も少なくなっている。

さて、肝心の観察した人里植物であるが、20 年以上も同地区を観察されている先輩に従い、2 月は春の七草の観察をした。七草である、仏の座の「コオニタビラコ」や御行の「ハハコグサ」が最近見つかり難いとのことをよく聞か、ちゃんと彼らは育って



コオニタビラコ

いた。もちろんセリ・ナズナ・ハコベラも低温や乾燥に耐え、しっかり生きている。けれど、11 月下旬頃花が咲いていたセイヨウタンポポ・オオイヌノフグリ・ヒメオドリコソウ・ホトケノザなどの早春の代表？の花は例年にない寒さの為なのかどうか分からないが、花葉も枯れ縮んでいた。余り観ないと思われる植物ではヤワゲフウロや研究目的の代表種とされるシロイヌナズナが枯れ葉の間から陽光を浴び、春の来るのをしたたかに待っていた。この時期の樹木の冬芽や草本のロゼット観察は植物の生き様を知ることが出来て楽しい。



ヤワゲフウロ

## 63年ぶりの再会？

## 2 班 藤田 憲治

十日ほど前、夢を見ました。小学校 1 年生 2 年生の頃のもので。

私は京都府の宇治市出身で近くには菟道第一小学校と第二小学校がありました。距離的には第一と第二は 1 キロほどしか離れていませんが、団塊の世代の始まりで毎年生徒数が増え 6 年生の頃には両校とも二千人を超していました。私は第二小学校でしたが、校区的には第一小学校の女の子が同じクラスにいました。その子は軽い小児麻痺で手首が麻痺を起こし、特に下肢はとても歩きにくそうでした。名前は典子・H、その時の担任はたづろ・T 先生。その子の家が近い第一小学校は山の途中にあり急な坂道で登校しなければならないので、わざわざ 1 キロほど離れた第二小学校へ来たのかも知れません。親御さんが送り迎えをしていたのかも知れません。私は学年で一番背も高く大きかったので、若草山への遠足の時などは先生が「ケンちゃん、ノリちゃんをお願い」とお世話係を仰せつかりました。私が手を繋いで一番後からゆっくりと登ります。安全の為でしょう。急いで移動しなければならない運動会の時は、彼女を背負って移動しました。教室は 1 年 1 組で校舎の一階で一番端でしたので校庭に降りるのはそんなに辛くはなさそうでした。何かの折には「ケンちゃん、ノリちゃんをお願い」と言われても抵抗無く要望に応えることが出来ました。不思議にも自分に与えられた仕事のような気がしていました。それを労って下さったのか、1 年生 2 年生を通して何度か晩ご飯に呼ばれたりお風呂をいただいたりしました。私の家にも五右衛門風呂があったのですが、只、その何年か後に先生のお父さんが畑仕事から帰る途中、鋤に雷が落ちて亡くなったときはショックでした。

今まで「ノリちゃん」の夢を一度も見たことがないのでどうして今頃見たのか。不思議な気分です。「ノリちゃん」に異変があったのか、それとも私に異変があるのか？

女性はやがての場合嫁いで行かれるので、ネットで検索もしましたが近況は分かりませんでした。近所にご夫婦共に麻痺のある五十代のクリーニング屋さんがありましたが、小児麻痺と言っても命に別状無い方も、早期に亡くなる方も症状は色々らしいですが・・・。



## 小倉百人一首のゆかりの地を訪ねて

3班 齋野 政博

私は、日本ウォーキング協会傘下の歩け歩け協会に加入し、I V V (国際スポーツ連盟) 記録認定は、回数 700 回・距離 1 万 1 千<sup>キロ</sup>である。協会の H29 年度のテーマの一つに“小倉百人一首のゆかりの地を訪ねて”があり、ゆかりの地 112 ヶ所と歌碑 235 を見て歩くもので、全 40 回(内、日帰りバスウォーク 3 回、総歩行距離 636 <sup>キロ</sup>)の例会に参加したので、主なものを報告する。

白峰御陵(坂出市)を訪れた。百人一首 77 番を詠んだ崇徳院が祀られている。四国にある唯一の天皇陵とのこと。崇徳天皇は鳥羽天皇の第一皇子で、父との不和から保元の乱を起こし、争いに敗れた後、讃岐へ流罪となり、その地で崩御された。一般的に天皇や皇后、上皇などの墓所である御陵は、京都や奈良など当時の都の近くに造られているが、都から遠く離れた所に造られているのは、下関の安徳天皇陵と淡路島の淳仁天皇陵、そしてここ白峰御陵だけとのこと。



昭和幸福村公園(三重県四日市市)を訪れた。この公園の歴史の道沿いに 19 個の百人一首の歌碑がある。日本の尊い精神、文化を後世に残したいとの願いをこめて先代園長(既に他界)が創ったユニークな私設公園である。我々は、ご子息の当代園長に公園を案内してもらったが、歌碑の内 3 つがどうしても見つからず、当代園長はじめ参加者全員で搜索の結果、ようやく草むらに隠れて放置された状態の歌碑を見つけ、全員でバンザイをした。最も喜んだのは、当代園長で、草を刈り案内板を設置するとのこと。



京丹後市大宮町にある「小町公園」を訪れた。百人一首 9 番を詠んだ小野小町の資料館・展示室など近代的に設置されている。小町に関するゆかりの地は数多くあり、JR 琵琶湖線「小野駅」周辺には、小野神社・小野小町供養塔・百人一首 11 番を詠んだ小野篁を祀った小野篁神社・小野道風神社・小野妹子公園等があるが、観光地化されずに素朴なままで、小野一族の歴史を感じる所である。



最後は、嵯峨嵐山百基巡りで締めくくった。

## 「被爆樹木との出会い」

4班 中澤 重文

年明けの 1 月に広島に夫婦で一泊旅行に出かけた。娘の勤務先(ショッピングモール)を夫婦で訪ねて、周辺を観光旅行するのが我が家の恒例行事となっている。一昨年の高岡市、昨年の出雲市に続いて今年は広島市となった。広島市内を娘の案内で歩いて廻ったが、その道中で多くの被爆樹木に出会うことができた。

最初に出会ったのは平和記念資料館北側のアオギリ。爆心地から 1300m の地点で被爆した 3 本が移植され、1 本が枯れたと聞いていたが、3 本植わっている。3 本目は何者かと不審に思ったが、被爆アオギリ 2 世を移植したものであった。アオギリの西側には意外な被爆植物が移植されていた。爆心地から 2200m の地点で被爆したインドハマユウ。冬は葉だけで、どんな花なのか調べてみるとユリのようなラッパ状の花だった。次に出会ったのは平和大通りの白神社前の被爆樹木群。爆心地から 530m しか離れていないのに、クロガネモチ 5 本、ムクノキ 3 本、エノキ 2 本、カキとセンダン各 1 本の計 12 本が残っている。どの木も地上部が焼失し、残った根元から新芽が生えて成長したため、幹に被爆の傷跡は見られない。説明プレートが懸っていなければ普通の木と全く見分けはつかない。



最後に出会ったのは爆心地から 1700m 地点のシダレヤナギ。平和大通りの東端、鶴見橋東詰に立っている。娘が通勤時に千羽鶴が吊り下

げられているのを見たというので行ってみると、この木に手を合わせている男性に出会った。お話を伺うと、ご本人は学童疎開で無事だったが、御家族が鶴見橋の近くで亡くなられたとのこと。説明板の写真(昭和 20 年 9 月撮影)には、一面の焼け野原の中に、焼け残った鶴見橋(当時木造橋)と被爆に耐えたシダレヤナギが写っていた。現在も爆心地から 2km 以内の地域には約 160 本の被爆樹木が残っており、また来る機会があれば、今回出会えなかった被爆樹木に会ってみたい。

## 私のライフワーク

4班 玉尾 洋一

私がパソコンと出会ったのは、シャープ製の MZ-80B が発売された時だ。1980 年頃だと記憶している。当時は小型で画期的な商品で大変人気を博していた。「パソコンサンデー」という操作を習う 30 分のテレビ番組があったくらいだ。ディスプレイ、キーボードと記憶媒体が一体化されていて、本体メモリーはわずか 64KB で、いま使っているパソコンは 1,250,000 倍も増量している。デジタルの世界は飛躍的に発展した。このパソコンは basic 言語で動き、記憶媒体はなんとカセットテープで、それにプログラムを記録する。60 分テープで 500KB 覚える。クリーンコンピュータと呼ばれ、電源を入れるたびに、テープから本体にプログラムを入れる必要がある。読み始めたら「ポン～」という高い音が鳴るのを覚えている。簡単なプログラムを作って良く遊んだ。その後、NEC から OS が「MS-DOS」で、プログラムがパッケージ化された分離型パソコンが発売された。利便性のあるビジネス向けのソフトを武器にシェアを拡大し、MZ は消えていった。

前置きが長くなったが、シニア自然大学校に入学する前から、よく野山を歩いていたが「その時植物が分かればもっと歩きが楽しくなるだろうな！」と思っていた。予想通り少し分かってくると、ウォーキングが倍、楽しくなった。樹木の表情を写真に撮り、沢山のデータを蓄積した。その頃、自然と文化科で広報に加わり、ホームページに刺激を受け、自分のホームページを作ろうと挑戦した。関連書を数冊買って悪戦苦闘した。



[検索画面]

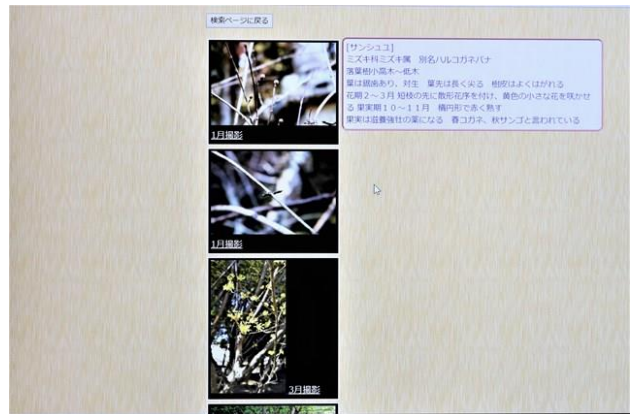
まず必要なサーバーは「FC2」で借りることにした。無料だ（CMが流れるが）。次に作成が簡単にできる「ホームページ作成ソフト」があるが、費用が掛かるので、それは使わず無料で使え

る「テキストエディター」を使う事にした。

「HTML の用語」と範囲ごとに表示方法が指定できる。「CSS」がありそれを覚える必要がある。尚且つインタラクティブな動きが可能な

「JavaScript」があり、良く考えられているがなかなか難しい、特に「JavaScript」は手に負えない。それでも何とか最低限の形を作ることが出来た。

タイトルを「四季の樹」とした。春夏秋冬の樹木の顔を載せるつもりだ。検索画面（左図）で樹木名をクリックすると、検索結果（下図）で、写真と特長が表示される。写真をクリックすると、拡大して細部まではっきり確認できる仕様にした。曲がりなりにも仕様は出来た(改良点は多々ある)。



[檢索結果]

有名な「樹木検索図鑑」は 594 樹種数、「松江の花図鑑」では 371 樹種数掲載されている。すごいのは花、果実、冬芽など詳しく閲覧することが出来る。「四季の樹」のデータはおよそ 450 樹種数あるが、四季別に揃っているのは 1 割ほどでこれからである。しかも問題がある。まだまだ同定できない樹が多い。諸先輩方のご教授が必須である。

上述したようにインターネットを覗くと簡単に閲覧でき、大量のデータを含む完成された検索ツールが多くある。今更、制作してもと思われがちだが、観察するたびにホームページが充実すると思うと、楽しみが倍增する。これを私の「ライフワーク」にするつもりだ。完成に何年掛かるかわからない、たぶん完成はないだろう！







ゴイサギ



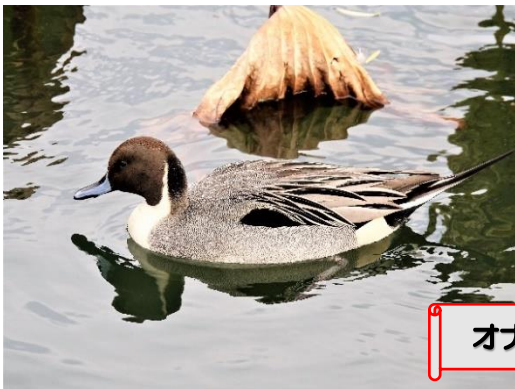
ホシゴイ



カワセミ



ヨシガモ



オナガガモ



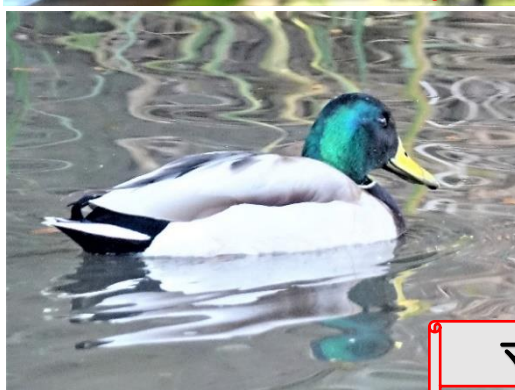
ホシハジロ



アトリ



メジロ



マガモ



コサギ



◆◆◆ 抱きつく木 ◆◆◆

4 班 遊上 眞一

樹木は接触すると、最初は相手を押しのけようとしますが、相手が退かないときは次に呑み込みにかかります。両者が同じことをすると接触面は広がり、互いの形成層の角度が 180 度近くになると、もう樹皮が作れなくなり、癒合するようになります。



相撲をとっているようなエノキ（万博）



ブナ（右）とイヌシデ（左）（能勢 妙見山）  
異種の木が抱き合うのは、珍しいことです。



京都下鴨神社の相生社は縁結びの神様。  
そこにあるシリブカガシの連理の賢木。



シナサワグルミの連理の木（服部緑地公園）



由良川の広い河原トチノキ平に聳え立つ、  
堂々たるトチノキの大木。どうなっているの？



近接して生えた同種の木が大きくなると、見かけは独立木ですが、根が組織的につながって合体しています。 岩手中尊寺のスギ。



## 幸せのお裾分けをしませんか？

1班 高井 茂光

唐突ですが、現在ホームレス状態の人は全国でどれくらいの数だと思いますか？ 厚労省の概算調査によると 29 年時点で 5534 人です。

調査は「都市公園、河川、道路、駅舎その他の施設を故なく起居の場所として、日常生活を営んでいるもの」と対象を限定し、昼間に目視で行われています。ネットカフェや脱法ハウスなどに滞在する人や、日中仕事で移動する人は数に入っていない。

この数が多いか少ないか、感じ方は人それぞれとは思いますが、考えさせられる数ではあります。

ところで、街を歩いていると街角で何冊かの冊子をもって黙って立っている人を見かけませんか？ 彼らは手に持っている冊子「ビッグイシュー日本版」を販売しているホームレスの人たちです。

「ビッグイシュー日本版」は 2003 年 9 月に創刊され 1 年目は月刊、2 年目から毎月 1 日と 15 日の 2 回発行に増やし、2018 年 2 月 15 日号で 329 号を数えます。

ビッグイシューはもともと英国生まれです。1991 年にロンドンで創刊されました。「施し」ではなく、雑誌を販売する報酬で自立を目指してもらうビジネスモデルが斬新で、瞬く間に世界各地に広がりました。

その仕組みは、定価 350 円の雑誌「ビッグイシュー日本版」をホームレスである販売者が路上で売ります、うち 180 円が彼らの収入になります。最初の 10 冊は無料で提供され、その売り上げ（3500 円）を元手に、以降は 1 冊 170 円で仕入れ、販売する仕組みです。

販売者は、現在路上で生活しているか、あるいは安定した自分の住まいを持たない人々です。住まいを得ることは単にホームレス状態から抜け出す第一歩にすぎません。そのため販売により住まいを得た後も、必要な場合にはビッグイシューの販売が認められています。

販売者は顔写真と販売者番号の入った身分証明書を身に着けて販売しています。他に当項目を含む 8 項目の行動規範を守って販売しています。

（内容は省略します）。

## ホームレス自立への 3 つのステップ

（ビッグイシュー日本の見解です）

自立には人それぞれ、人の数だけあります。私たちは次の 3 つのステップを考えています。

第 1 ステップ・簡易宿泊所（1 泊 1000 円前後）などに泊まり路上生活から脱出する。

（1 日 20～25 冊売れば可能になります）

第 2 ステップ・自力でアパートを借り、住所を持つ。（1 日 25～30 冊売り、毎日 1000 円程度を貯金、7～8 か月で敷金を作る）

第 3 ステップ・住所をベースに新たな就職活動をする。

今販売者の多くは第 2 ステップに挑戦中です。

世の中には意に反してやむなく路上生活を強いられている方が多くいることは前述のとおりです。ホームレスの自立支援のための活動を精力的に行っているビッグイシュー日本と自立の為に頑張っているビッグイシューを売っている販売者のためにも、見かけたら、皆さんの幸せをお裾分けする気持ちで 1 冊購入してみませんか？

ビッグイシュー日本は 100%失敗するといわれて始まったそうです。日本では、1・若者の活字離れ、2・雑誌の路上販売文化がない、3・優れた無料誌が多く有料では買ってもらえない、4・ホームレスからは買わない、という四重苦があるからだそうです。

それでも創刊から 10 年余で、多くの市民の皆さんとともに、この常識に挑戦し、累計 741 万冊を販売しホームレスの人に 10 億 9451 万円の収入を提供したそうです。

私は一般的に誰にわたり何に使われたか、さっぱりわからない寄付が多い中、目の前の彼に確実にお金が渡る、しかも相手は普段見向きもされない、路上生活を強いられ助けが必要な弱者であるというビジネスモデルに興味を持ち、時々ビッグイシューを購入しているに過ぎないだけの者です。

皆さんも既にご存知で、かつ、この活動に賛同され協力されている方も多いのではと思いつつ、紙面を借りて紹介させていただきました。



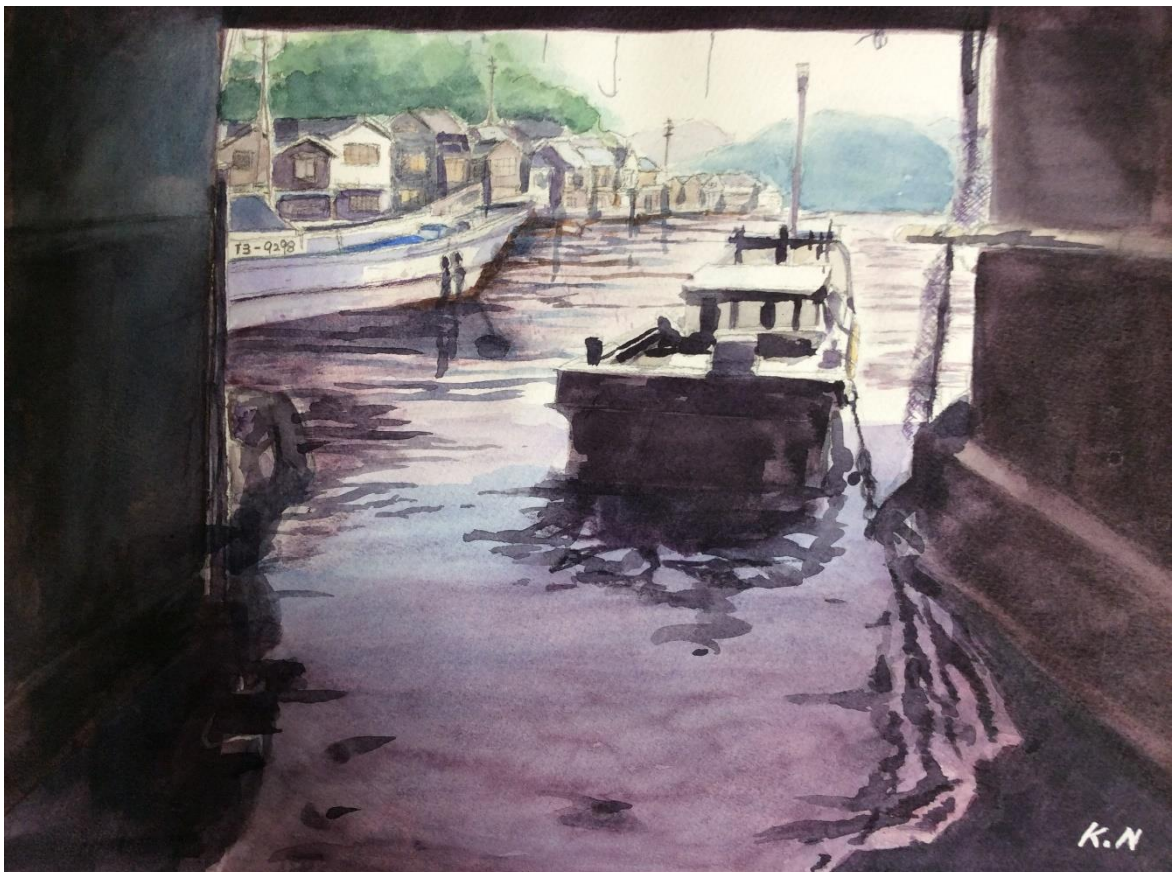
田原の里

3班 岩城 正大



京都・伊根

2班 西田 喜代三





しまなみ海道の絶景は遙か遠く

4班 上池 喜代美

まだ暑い季節にしまなみ海道のサイクリングに誘われた。尾道から今治まで大三島で一泊して瀬戸内海の島々を巡る一泊二日の自転車旅。飛鳥路で事前練習、長時間の走行に備えてサドルクッションも準備して当日を迎えた。

11/4、早朝小雨の中、新幹線で尾道に向かった。予報に反して尾道も小雨。尾道港でレンタサイクルを選び、向島まで渡船で移動した。小雨の中雨具を着て、海岸線を因島大橋目指して走った。頭上に橋を望むも自転車道入口はなかなか見えない。やっと入口の表示を見つけたが急な坂道が続いている。登れるかなと不安になったがとにかくこぎ出した。登りはじめたがずるずる後退する。自転車を降りて押して上がろうと決めた。降りようとしたが足が届かない。あと思った時スローモーションの映像を見ながらリュックを背に仰向けに転倒した。気がつくとお腹の上に自転車がある。なかなか起き上がれない。数分後仲間に助けられてやっと立ちあがった。外傷はなく痛みも我慢できない程ではなかったので、数百メートル自転車を押して坂道を登った。眼下に海が見える平坦な自転車専用道まで来て、自転車に乗ろうとした。腰に激痛が走り、足が上げられない。これはもう無理だ。緊急連絡用の電話で仲間に救急車を手配してもらった。搬送された尾道の病院で骨折痕はあるが今回の骨折ではないだろうと診断された。骨折した記憶はなかったが大事にならなくて良かったと安堵した。

痛みに耐えてタクシーと新幹線を乗り継いで帰宅。次の日は様子を見たが痛みはひどくなるばかり。16日朝、近くの病院にいくも判断はMRIの画像が必要と言われ予約して帰宅。20日に第4腰椎圧迫骨折で全治3ヵ月と診断された。

コルセットができるまでさらに1週間寝たきりの生活が続いた。トイレに行くのも這って移動、椅子に座ってられず食事も寝たまま、お風呂だけが痛みから解放される時間だった。

27日にコルセットが届いた。コルセットの効果は絶大だった。寝返り、立ち上がりには痛みがあるが家事はどうかできる。年末には痛みはほぼ感じなくなった。2/5治療終了、コルセットをはずせた。まだ腰に痛みがあり真っ直ぐに立てない。いつか姿勢良く歩けるようになるかな。

1班 山上 恵子

俳句

短日を慈しみつつ暮らしをり  
柵に挿した鰯を子の質す  
梅一輪咲いて世間の騒がしき

川柳

「異動」 三部作 (若き日の)  
他人事と思う我が身に來た異動  
人々に心残して今日異動  
異動して友情の輪の拡がりぬ

4班 谷坂 修二

俳句

退院の梅赤き枝気にかかり  
再発の有りや無しやと蕾みつく  
通院も観察道に春見付け



自然と文化だより  
皆様のご協力により36号が発行出来ました。有難うございました。(広報委員会)